

Free Magazine **ITALIAZUKI**

# イタリア好き



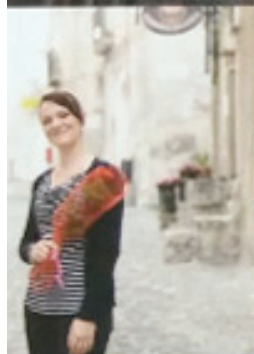
vol. 34  
Estate  
2018

Calabria: che splendore!

カ  
リ  
ブ  
リ  
ア  
旅  
日  
記

Diario di Viaggio in Calabria





けたり、村の生活を体験させてくれたりもする。海に臨み、高台には朽ちた城壁があり、村を愛したサルヴァトーレ・フェューメの作品も多く残る美しいこの村に不便なく滞在できるようにあって、訪れる人が増えたという。店前に座って井戸端会議を開くマンマたちや床屋の親父さんなど、みな様に表情が明るいのは、やはりアルベルゴ・デイフーズが成功しているからなのか。ちよつとしたアリメンタリーを覗くと、マルケの取材時に行ったマンチーニのバスタを見つけた。こういう時はやはりうれしい気持ちになるものだ。アルベルゴ・デイフーズの取り組みを始めたラファエッレさんに会うことができた。意外なことに、彼はローマ在住の医師だった。「出身はカラブリアなんだ。当時は育った地域が危険だったからと10歳で全寮制の学校へ入れられて寂しい思いをしたけど、夏休みには家族でこのあたりに滞在してね」父親が「お前をカラブリアから追い出したのはカラブリアだった。でも、どうかこの土地を憎まないでくれ」と遺言を残したことから、過疎化したこの村の再建のために「人生をかけて」力を尽くしている。この取り組みはアグリトリズモだけでなく村全体が経済的に潤うところが素晴らしい。

夜に立ち寄ったアグリトリズモのレストランで日本人のイタリア料理人に出会った。普段はブリアリアにいて、この日は手伝いだという。今年いっぱい帰国する予定だ。イタリア人の奥さんを連れて。やるなあ。